

胃の仕組みと胃薬の働き方



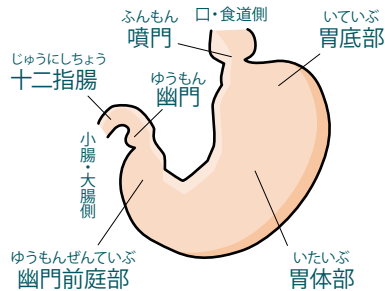
年末年始を過ぎると、胃の不調を訴えられる方が増えてきます。胃は、『沈黙の臓器』といわれる肝臓などとは違って、自覚症状として比較的分かりやすいSOSを発します。今回は、胃の仕組みと胃薬の働き方について取り上げます。

胃の構造と働き

胃は、みぞおちの辺りに位置する袋状の臓器です。入口から噴門、胃底部、胃体部、幽門前庭部、幽門と呼ばれる部位で構成されています(下図)。

入口の噴門は食物が食道へ逆流するのを防ぎ、出口の幽門は食物の十二指腸への通過を調節しています。胃の働きのひとつは、食物を一時的に蓄えることです。空腹時には細長く萎んでいますが、満腹時には大きく膨らんで成人で約2Lの食物が入ります。また、胃のメインの働きとして、食物の消化があります。胃は蠕動運動(ぜんどううんどう)という食べ物を移動させるような収縮運動を行い、食物を細かく擦り潰します。そして、消化をする為に、1日1.5~2.5Lもの胃液が分泌されます。

胃の各部の名称



胃酸	酸で食物を殺菌する
ペプシン	タンパク質を分解する
粘液	胃酸などから胃を守る

胃痛の原因

通常、健康な胃では胃酸(攻撃因子)と粘膜(防御因子)のバランスが上手く保たれています。ところが、さまざまな要因でこのバランスが崩れると胃酸によって胃粘膜が障害を受けて胃痛が起こります。また、近年ではヘリコバクター・ピロリ菌の感染が胃の障害に深く関与していると言われ注目されています。

【参考】

日本消化器病学会ガイドライン
東御市民病院HP
守口敬仁会病院HP
総合南東北病院HP

攻撃因子と防御因子のバランスを崩す要因

- 加齢 ■ ストレス ■ 寝不足(過労) ■ 喫煙 ■ 過度な飲酒
- 刺激物の多い食生活(カフェイン・香辛料など)
- 薬剤(風邪薬や解熱鎮痛剤の汎用など)
- 感染症(ヘリコバクター・ピロリ菌など)

暴飲暴食を避け、消化のよい物をとるようにしましょう。タバコはやめ、アルコールもほどほどにしましょう。ストレスなど、うまく取り除くことも大切です。

胃薬の種類

胃薬は潰瘍治療薬と健胃消化薬の2つに大別されます。

潰瘍治療薬

粘膜保護薬	傷ついた胃粘膜の修復を促したり、胃酸による刺激から保護したり、粘液の分泌を促したりします。(ムコスタ、プロマック、ガスロンN、セルベックス、マーズレン、アルサルミンなど)
胃酸分泌抑制薬	過剰な胃酸の分泌を抑えたり、胃酸自体が作られるのを抑えたりして、胃粘膜への攻撃を防ぎます。(タケキャブ、パリエット、タケプロン、ネキシウム、ガスター、プロテカジンなど)
制酸薬	出過ぎた胃酸を中和することによって胃粘膜への刺激を抑えます。マグネシウムやアルミニウムなどが含まれているものは、抗生剤の吸収を低下させることがあるため飲み合わせに注意が必要です。(マーロックス、炭酸水素ナトリウム、酸化マグネシウムなど)

健胃消化薬

消化酵素薬	炭水化物、タンパク質、脂質などを分解する各種酵素を含み、食物の消化を助ける薬です。(ベリチーム、タフマックE、エクセラゼなど)
健胃薬	主に生薬が含まれており、独特の香りや苦みなどの刺激によって唾液や胃液の分泌を促し胃の働きを活発にする薬です。(含有生薬:オウバク、オウレン、センブリ、ゲンチアナ、リュウタン、ケイヒなど)

詳しい事は薬剤師にお問い合わせください。